

令和8年度 第2回 学校運営協議会

1. 日時 令和8年9月17日（木）9:15～11:15

2. 出席者

（1）学校運営協議会委員

【委員①】元浜北特別支援学校長

【委員②】PTA 会長

【委員③】地元（中瀬4区）自治会長

【委員④】元県立高等学校長

【委員⑤】社会福祉法人 管理者 社会福祉士 精神保健福祉士

【委員⑥】一般企業代表取締役社長

【委員⑦】浜名福祉事務所 社会福祉課課長

【委員⑧】社会福祉法人 児童発達支援センター長 医学博士

（2）校内教職員

校長 副校長 教頭 事務長 小学部主事 中学部主事 高等部主事 教務主任

自立グループ主任 防災課長

3. 会議次第

（1）会長挨拶

（2）校長挨拶

（3）報告「防災について」

（4）生徒会選挙会長立候補演説視聴

児童生徒代表との意見交換

（5）協議

「令和8年度 学校経営計画」のウ連携・協働（つなぐ）の取り組み目標を達成するために、学校ができること、地域の宝を生かしてできること

（6）各グループより報告

（7）今後の予定

4. 協議等記録

○会長挨拶

組織・運営を中心とした意見交換が多かったこれまでの協議会に対し、今回は生徒会演説の見学や小中学部児童生徒代表との懇談、地域連携など盛りだくさんな内容が組まれている。在校生の生の声や思いを直接聴くことで、学校の状況を総合的・多角的に理解するための大きな一助になると思う。

○校長挨拶

静岡大学情報学部と共同開発した LINE ボランティア募集システム「浜北応援団」の本格運用を開始した。すでに 30 名程度の登録・応募があり、10 月からの本格活動に向けてマッチングが進んでいる。「地域の宝（人・モノ・コト）」をどう活かしていくか、地域の中で生きる子どもたちにとって有意義な触れ合いとなるよう、具体的な活用について熟議を行いたい。

○報告「防災について」・今年度の防災についての報告（防災課長より）

- ・マンホールトイレ設置訓練（8 月末実施）：新任教職員および希望者に加え、地域の住民 5 名が参加して共同で実施した。グラウンドの災害用保管庫から 5 基のマンホールトイレを取り出し、1 基につき 9 人の体制で組み立て訓練を行った（所要時間 20～40 分）。プールから直接水を引いて汚物を流す給排水手順を確認した。来年度も地域住民へ広く声をかけ継続実施する予定。
- ・医療的ケア児用電源の確保：停電時に備え、発電機 3 台（ガソリン用 2 台・充電式 1 台）と保健室・校長室の非常用電源（赤・緑コンセント）を整備している。吸入等が必要な医療的ケア児用に 1 台を優先確保するだけでなく、他の発電機や非常用電源も柔軟に組み合わせ、電源が途絶えることのない給電体制を整えている。
- ・防災の日体験学習（9 月 2 日実施）：「自分の命は自分で守る」をテーマに、非常食の試食、簡易トイレ体験、寝袋体験、ダンボールベッド組み立て訓練（浜松市からのレンタル品を高等部生徒と協力し 10～20 分で完成）を実施した。また、静岡県地震防災センターから借用した VR 機器によるリアルな津波・地震映像体験、ヘルメット着用が困難な児童向けにセラピーマットで頭部を保護する訓練、西部地域職員による地震メカニズムの解説講話などを実施。高等部生徒による手回し発電、ダンボールスリッパ作成、担架搬送体験なども行われた。
- ・継続的な訓練と避難所模擬体験：月 1 回のシェイクアウト訓練・避難訓練を継続している。さらに今後、中学部 2 年生を対象とした「防災宿泊学習」（ダンボールベッド設営、非常食体験、入浴なしで体を拭く体験、暗闇体験など、24 時間の避難所生活模擬学習）を計画している。

福祉避難所の指定・運用および地域防災に関する意見交換

【委員⑦】昨年度、浜名区独自で福祉避難所関係機関との意見交換会を開催した。従来の行政マニュアルでは「一次避難所へ避難後に福祉避難所へ移送」とされていたが、「通い慣れた特別支援学校へ直接避難したい」という切実な生の声を危機管理課に伝えたところ、行政側の意識・理解に明確な変化が見られた。能登半島地震や熊本地震における福祉避難所の利用率の低さも踏まえ、実態に合わせた運用マニュアルの見直しが進められている。今後は高齢者・障害者施設でのモデル実動訓練などを通じて、より現実的な体制整備を目指す。

【委員⑩】市への要望ですが「被災したら即避難所へ行く」という従来の固定観念を改

め、自宅の損壊がない場合は「在宅避難（自宅避難）」を第一選択とする啓発と、各家庭での備蓄徹底を促してほしい。

【委員⑧】福祉避難所の運用やマニュアル策定については、危機管理課任せにするのではなく、障害福祉の専門部署（障害者福祉課等）が主導して行うべき。

○生徒会選挙会長立候補演説視聴

【副会長候補】

推薦者演説：朝のトレーニング後に友達のを机を進んで運ぶ姿や授業準備の手伝い、放課後や休みにサッカーの練習に誘う等、他者の痛みに寄り添う思いやりの深さが紹介された。

本人演説：言葉や体の不自由さに関わらず、全校生徒がみんなで楽しめる行事や生徒会活動を企画・実行したい。自分の長所である観察力と行動力を生かし、会長を全力で支えたい。

【会長候補①】

推薦者演説：困っている人へ真っ先に手を差し伸べる優しさと、意見が食い違っても相手を否定せず納得できる解決策を共に探す誠実な姿勢・行動力が紹介された。

本人演説：「みんなが明日も行きたいと思える学校づくり」を目標に掲げた。ハロウィンパーティーやクリスマス会などの季節イベントを全校生徒の意見を聞きながら企画したい。自然に助け合える温かい学校にしたい。

【会長候補②】

推薦者演説：日頃から元気な挨拶と声かけを行い、友達の状況をよく見て行動できる点、一人ひとりの個性を認め合う学校を目指す姿勢が紹介された。

本人演説：「一人ひとりの個性を生かした明るい学校」を目指すスローガンとしてお互いに声をかけやすくなるきっかけとして「挨拶運動」を増やし、互いの良いところを見つけ認め合える学校を作っていきたい。

【会長候補③】

推薦者演説：「一致団結」をスローガンに掲げ、意見が分かれた際も中心に立って全体を一つにまとめる力と、圧倒的なメリハリ・集中力が信頼されていると紹介された。

本人演説：強引に引っ張るのではなく「誰よりも一番近くで全員を支える会長」になる。誰ひとり取り残さない取り組みとして、校内に「意見箱」を設置し、生徒全員の小さな声やアイデアを一つずつ形にしていきたい。

○児童生徒代表との意見交換

小学部6年生3人、中学部1年生1人、中学部3年生2人が参加し委員からの質問に答えた。

- ・将来の夢：「多くの患者さんを助けたいので看護師になりたい」また、「電車が好きだから電車の運転士になりたい」という夢や、「歌やダンスが好きなのでみんなで一緒に歌ったり踊ったりしたい」といった夢を発表した。

- ・好きな授業・学校での流行：一番好きな授業として「体育」が多く挙げられた。跳び箱5段への挑戦や縄跳び25回以上の達成などを報告した。学校で流行していることとして「昼休みに体育館でみんなと遊ぶこと」や「修学旅行（愛知県・名古屋城やINAXライブミュージム見学等）に向けた事前学習」が挙げられた。
- ・目指したい学校像：「明るく元気に学校生活を送れる学校」、「みんなが笑顔になれる学校」、「友達をもっとたくさん作れる学校」、「元気に挨拶ができる楽しくて明るい学校」などが挙げられた。

○協議1「令和8年度 学校経営計画」のウ連携・協働（つなぐ）の取り組み目標を達成するために、学校ができること、地域の宝を生かしてできること

【グループ①】

- 【委員①】 浜北応援団のチラシの回覧が回るのに1か月かかり若い世代に届きにくい。チラシの全戸配布、ポスターの大型化、市の広報誌への掲載など改善策が考えられる。
- 【学 校】 募集をして2週間ほどだが、現在約30名の登録があった。保護者は5名ほど。学生、社協関係の方などから応募があった。プール掃除を企業の方にボランティアで手伝ってもらっている。企業にも是非参加していただきたい。
- 【委員⑥】 勤めている世代は難しい。教育、福祉に興味がある方が実習体験のように登録前に生徒とコミュニケーションをとる等だけでも関心を持ってもらえるのではないかな。
- 【学 校】 子どもたちの声「明るく、楽しく、元気に」という願い、学校、地域の願いが学校経営に入っていくといいと思っている。他にもこんなことができるのではないかなという御意見を頂きたい。
- 【委員⑤】 子どもへの関わり方は、ボランティアさんが得意なことを活かせる内容から始めるとよい。
- 【学 校】 実績をインスタに載せることでこんなこともできるということを広げたい。
- 【学 校】 今回のボランティア募集のアプリは、応募者にプロフィールを入れてもらうところがあるが、やはりなかなか入れてもらえてない。
- 【委員⑥】 会社でも自分のプロフィールを載せることをなかなかできない人が多い。
- 【委員①】 地域の中でもこの人はどんなことが得意か、互いに話をする中で得る情報はあまり多くはない。
- 【学 校】 地域のモノ・コト・ヒトをどんな形でつなげることができるだろうか意見を頂きたい。
- 【委員⑤】 在学中に、授業で取り組んだ歌を披露する。
- 【委員⑧】 放課後等デイサービスのワークショップや友愛のさとまつりへの参加は喜ばれるだろう。
- 【委員①】 中瀬4区祭典にオープニング演奏をしてもらうなど。

【学 校】部活であれば、土日のイベントに行くのは可能。以前は、ふれあいコンサートに高等部の和太鼓部が行っていたが、実習時期と重なり難しくなった。時期を変えれば行けるかもしれない。

【グループ②】

【学 校】静岡大学情報学部と共同開発した LINE システムを通じて、新たなボランティア開拓中。すでに約 30 名の登録があり、保護者も 4～5 名参加している。10 月から実際の活動マッチングが開始される。

【委員④】ボランティアを「毎週決められた時間に通う」などと厳格に捉えすぎず、気楽に参加してもらうことが長続きのコツである。長年継続している「ケヤキの会」等の挨拶運動も、気軽に顔を出すことの繰り返しの中で、地域の中で为学校へのイメージを劇的に改善した。構えずにフランクに関わることが大切である。

【委員②】登録者の素性或個人情報が見えにくい点に対する不安がある。

【委員⑦】ボーイスカウト活動の募集の経験から、最も効果的で安心なのは「ロコミ」による広がりである。

【学 校】朝のトレーニングを一緒に走る、作業学習を少し手伝うなど、教職員側も過度な事前準備を必要としないフランクな参加形態を考えたい。

【委員④】発災時に教職員が駆けつけられない場合に備え、グランド西側の防災倉庫や校舎施設の「鍵の管理」を地元自治会や地域住民とどう共有しておくかが今後の重要課題である。

○報告

(1) グループ 1

- ・「浜北応援団」の周知拡大にあたり、自治会の回覧板に加えて、市の広報誌、浜北地域連合会、区の振興課などのチャンネルを有効活用する。
- ・LINE 登録時の入力画面のハードルを下げるシステムの改善をする。
- ・多様な大人との自然なコミュニケーション自体が、子どもたちの興味・関心を広げる素晴らしい機会となる。また、学校側から福祉事業所や病院、放課後等デイサービス等へ出向く視点も大切。

(2) グループ 2

- ・素性が分からない不安に対しては、顔の知れた人の「ロコミ」による広がりが最も安心かつ持続可能である。
- ・大きな取り組みを狙うのではなく、挨拶運動のような小さな活動を長年積み重ねることが地域における学校のイメージ向上につながる。
- ・マンホールトイレ訓練の継続的实施を評価しつつ、災害発生時における倉庫や校舎の鍵の管理・共有について引き続き地域と協議を重ねていきたい。